

EDE Student SIG 勉強会 へのお誘い

学生間で協力して ICTを用いた学習の分析・教育支援の研究動向 をキャッチアップ！

活動案

学生協働による

1. 学会論文の動向調査
2. システマティック・レビュー

参加するメリット

- 研究動向を俯瞰的に知ることができる
- 学術論文の要点を把握し、簡潔に伝える力をつける

2025/03/22

京都大学大学院情報学研究科
博士後期課程2年 石原 学

なぜ勉強会？

一人で研究の動向(論文の出版状況)を把握するのは大変

- 自分のテーマ・アイデアに関する最新の先行研究
- 旬のトピック
- 萌芽的なトピック

研究歴が浅い学生は 協力して情報収集・交換するメリットが大きい

- 効率的に研究動向を把握
- 自分の研究テーマ以外にも視野を広げる
- 学生間の交流で論文を読むモチベーションを上げる



Illustrations by Storyset

活動案1. 学会論文の動向調査(国際学会 and/or 国内学会)

1 メンバー結集！

- メンバーを集める。
- どの学会の動向を調査するか決める。



2 論文を読む！

- 学会の最新の論文について、各自が読む論文を割り当てる。



3 相互に発表！

- 各自、読んだ論文について内容を発表。
- 各自の発表を聞くことで、学会で発表された論文全体の傾向を掴む。

活動案1. 学会論文の動向調査(国際学会 and/or 国内学会)

例えばこんな感じ(国際学会の動向調査)

- cvpaper.challenge

<https://xpaperchallenge.org/cv/>

コンピュータビジョン分野のトップ国際学会の
最新論文を手分けして読み、資料をまとめて公開。

- HCI勉強会

<https://sigchi.jp/seminar/chi2024/>

ヒューマンコンピュータインタラクション分野のトップ国際学会の
最新論文を手分けして読み、
論文1本1スライドの分量でプレゼンテーション。

どの学会の動向を調べる？

教育データ利活用に関する研究内容で、無料でアクセス可能な学会。
以下は参考案です。**良さそうな学会があれば教えてください！**

国際／国内	国際学会（英文）	国際学会（英文）	国内学会（和文）
略称	LAK	EDM	JSET研究会
名称	International Conference on Learning Analytics & Knowledge	International Conference on Educational Data Mining	日本教育工学会研究会
期待できる学び	● 教育データ分析（質的・量的）からの知見 ● 教育実践への理論的枠組み	● 教育データ分析の新手法 ● 量的分析からの知見	● 教育システムの開発、予備的分析（質的・量的） ● 当該分野の日本の研究者
論文公開時期	3月	7月	5, 7, 10, 12月
論文数	フルペーパー 70件、 ショートペーパー 31件 (2025)	フルペーパー 21件、 ショートペーパー 39件 (2024)	177件 (2024) *1回あたり45件程度公開
オープンアクセス	○	○	○

いつ、どこで、どうやってやる？

時期	初年度の活動案
3-4月	学会論文の動向調査 勉強会メンバー募集 ※学部生也大歓迎！ 勉強会への参加希望フォームを別途告知(参加無料、EDE会員登録不要) ※企画 + 勉強会 で参加もあり、勉強会 のみの参加もあり
5-6月	参加希望者をオンラインコミュニティに招待(Discordを予定) - メンバー間で対象学会を決め、読む論文を割り振り - 進捗の共有 - 情報交換(生成AIの活用術や面白い論文など)
7月	各自、割り振られた論文をまとめる - 発表の方法を案内(スライドのテンプレートなど) - 勉強会の開催日程調整
8月	勉強会開催 DiscordまたはZoomで、各自読んだ論文の概要を発表

下半期は何をやる？

活動案2

学生協働による システマティック・レビュー

活動案2 システマティック・レビュー

システマティック・レビューとは

特定のテーマについて書かれた論文を、予め決めた手順に沿って網羅的に収集し、選定し、研究動向を分析する手法。

学会論文の動向調査との違い

- 1つのテーマに焦点を当てる。
例: クラウド活用を基盤とした協働学習に関する
システマティックレビュー ([村上 et al., 2022](#))
- ジャーナルや国際会議の論文を広範に調査。
- 中長期的な動向を把握(直近5-10年など)。



Illustration by Storyset

なんでこれを勉強会でやるの？

- 主要なテーマの先行研究やリサーチギャップを知るため。
- 長い英語論文を複数精読し、研究動向を体系的に分析するスキルをつけるため。

活動案2. システマティック・レビュー

1 メンバー結集！

- メンバーを集める。
- レビューするテーマを決める。
- システマティック・レビューの手順についての基礎知識を共有する。



2 論文を読む！

- 複数の検索エンジンから論文を収集。
- 集めた論文を一定のルールで絞り込む。
- 各自が読む論文を割り当てる。



3 知見を統合！

- 各自、読んだ論文について内容を共有。
 - 各論文のアプローチや知見をまとめ、動向を分析する。
- * 成果をレビュー論文としてまとめ、学術誌に投稿できるかも？

いつ、どこで、どうやってやる？

時期	初年度の活動案
9月	システマティック・レビュー 勉強会メンバー募集 ※学部生也大歓迎！ 勉強会への参加希望フォームを別途告知(参加無料、EDE会員登録不要) ※企画 + 勉強会 で参加もあり、勉強会 のみの参加もあり
10月	参加希望者をオンラインコミュニティに招待(Discordを予定) メンバー間で対象テーマを決める
11-12月	システマティックレビュー - レビューの方法について学ぶ - 論文を収集・絞り込み、各自が読む論文を割り振る - 進捗の共有、情報交換(生成 AIの活用術や面白い論文など)
1-2月	各論文のアプローチや知見をスプレッドシートに一元化する 不定期でオンラインで議論 - 動向の分析 - 成果報告会の開催日程調整、成果報告の方法を案内
3月	成果報告会(DiscordまたはZoom) ※完成度によっては論文投稿もあり

EDEの研究者の力も借りよう

必要に応じて、EDE研究者にメンターになってもらう

- 学会論文の動向調査
 - 発表会での質疑応答
- システマティック・レビュー
 - レビュー手順のレクチャー
 - テーマ決めへの助言
 - 動向分析への助言



Illustration by Storyset

EDE研究会	テーマ	おもな研究者
SIG1	基盤システム、標準化	EDEウェブサイトをチェック！ 「EDEについて」ページの「 EDE SIGの紹介 」参照
SIG2	分析・可視化	
SIG3	初等中等教育での分析実践	
SIG4	高等教育での分析実践	
SIG5	ポリシー	
EDE全般	ICT教育全般	

勉強会に関する活動案のまとめ

協力してやりたいこと ※学部生也大歓迎！

1. 学会論文の動向調査
2. システマティック・レビュー

今後案内するフォームから勉強会に参加してね

- メンバー間で詳細を決めよう
- フルオンラインで幅広く継続的に交流しよう
- 協働を通して、論文を読むスキルや研究分野の知見を培おう
- EDEの研究者の力も借りよう



Illustration by Storyset

活動範囲	学会論文の 動向調査	システマティック ・レビュー	過去資料 アクセス	企画提案
勉強会のみ参加	○	○	X	X
企画運営 + 勉強会参加	○	○	○	○